

ステップアップ

No. 32

下関病院 〒759-6613 山口県下関市富任町6丁目18番18号

TEL：083-258-0338 FAX：083-259-8876

<http://www.mizunoki.jp>

水の木会 検索

下関病院附属地域診療クリニックに 認知症疾患医療センター が設置されました

厚生労働省・研究班の報告によると、平成22年の時点で、全国の65歳以上の高齢者のうち認知症患者さんは推計15%で、462万人であり、認知症の予備軍とされる軽度認知障害の人は約400万人であると推測されています。さらなる高齢化に伴い、今後認知症に罹患する患者さんが増えていくことが確実視されています。従って、認知症対策は重要な国策の一つとなっており、その対策の一環として、認知症疾患医療センターが全国に整備されており、この認知症疾患医療センターは、認知症患者さんとその家族の方々が住み慣れた地域で安心して生活ができるための支援の一つとして、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置するもので、以下のような役割を担います。



- 1) 専門医療機関として、詳細な診断や急性精神症状への対応、身体合併症を有する患者への対応を行います。
- 2) 認知症医療の地域における中核的機関として、専門職研修会や連携協議会開催、専門的な相談を通して、医療機関と介護サービス提供事業所等との連携強化を図ります。
- 3) 認知症医療の情報センターとして、地域住民への認知症に対する理解を含めた啓発活動や相談を行います。
- 4) 地域における医療と介護の連携拠点として、認知症連携担当者を配置し、地域包括支援センターとの連携機能の強化を図ります。
(厚生労働省資料より)



下関病院は、これまでも認知症に罹患された患者さんに対して、医療・介護のサービスを多職種で提供してまいりました。この度、認知症疾患医療センターに指定され、患者さん、ご家族の方々、関連機関からのご指摘、ご要望をお受けしながら、これまで以上に質が高く、きめ細かいサービスが提供できるよう、職員一同全力で精進してまいります所存ですので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

(下関病院附属地域診療クリニック 院長 末次 正知)

認知症疾患医療センターへのご相談を希望される方は、083-258-2140 (ご相談専用窓口) にご連絡ください。

また、ご相談についてのご案内は、ホームページにも掲載しております。

<http://www.mizunoki.jp/shimobyou> を直接ご覧いただくか、「下関病院」で検索してください。





下関病院 夏祭り なつまっり 2014



平成 26 年 8 月 1 日、当院の夏祭りが開催されました。この日は雨に見舞われたにもかかわらず、多くの地域の方々が来場され、当院の夏祭りを盛り上げて頂きました。数々の出店からはいい香りが漂い、行列のできる出店もあったようです。

今年はいろいろなステージ企画が開催され、託児所のお子さん達によるかわいらしいお遊戯が披露され、観覧席の皆様も満面の笑みを見せておりました。他にも、マジシャンの方によるマジックショーも歓声が上げる場面がよく見られました。

そして、ステージ企画の締めは、毎年恒例となっている馬関連平家踊保存会の方々による平家太鼓の演奏です。迫力のある演奏にご来場した皆様も思わず見とれているほどでした。演奏に合わせて下関の伝統ある平家踊も行われ、参加して頂いた皆様の慣れた振り付けにより、場の臨場感や一体感が生まれてくるようにも感じさせられました。

当院の夏祭りは地域の皆様とのふれあう機会、交流を深めるという意味でも重要な行事となっております。今年も多くの地域の方々に来場していただき、そういった目的が果たせたのではないかと考えています。

最後に、今年も多くの企業や各団体の皆様からのご協賛を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。



(夏祭り実行委員長 石田 晋平)



ご協賛いただきました

株式会社 タカラ様・西日本医療サービス 株式会社様・株式会社 岩多屋様・栄食メディックス 株式会社様
 ライフクリーニング 有限会社様・松田清掃 株式会社様・有限会社 華企画様・株式会社 大林組様
 株式会社 友田組様

改めて御礼申し上げます



うつ病と睡眠障害

久留米大学医学部神経精神医学講座 内村 直尚 先生



平成 26 年 8 月 8 日、下関学術講演会が行われ、久留米大学医学部神経精神医学講座の内村直尚 先生が「うつ病と睡眠障害」について講演されました。内村 先生は昨年 4 月に久留米大学医学部の学部長に就任され、大変ご多忙の中お越し下さいました。

講演では、うつ病の初期症状としての不眠(特に入眠困難)や、うつ病の簡便なスクリーニング法について述べられ、不眠はうつ病のリスクとなるだけでなく、うつ病の患者さんで不眠が続くと自殺の危険が高まることを示されました。多くの患者さんが不眠を主訴に受診をされますが、他の症状の有無も確認し、病状を踏まえた上で治療にあたる必要があると思われました。

また良質な睡眠をとるためには生体リズムを整えることが欠かせず、睡眠をとりすぎることはかえって熟眠感の低下や不眠につながるとのことでした。患者さんが不眠を訴えられたときには、つい睡眠薬を追加し対応してしまいがちですが、患者さんの睡眠リズムや日頃の生活状況にも気を配るという診療に対する基本的な姿勢についても教えて頂いたように思います。今回教わったことをぜひ今後の診療に生かしていきたいと思えます。 (医局 水木 寛)



救命救急学習会

去る 8 月 18 日に、下関病院 4 階多目的ホールにて救命救急学習会が開かれました。ガイドライン 2010 では呼吸確認や気道確保よりも死戦期呼吸の判別を優先、(A) 気道確保- (B) 人工呼吸- (C) 胸骨圧迫の順番も(C)-(A)-(B) に変更されています。他にも 1 秒でも早く心マッサージができるように胸骨圧迫部位は胸の真ん中として**胸骨圧迫最優先**を理解していただきました。



救急場面においては的確な判断や迅速な行動が求められます。それには経験が必要との声もあります。それでは経験のないスタッフはどうすればよいのでしょうか。私自身は何よりもイメージが重要と考えています。イメージすることで何をすべきか、自分に何が足りないかが見えてきます。始業前に自分の勤務帯に急変者が出たらどうするかイメージしてみましょう。心肺蘇生は・・・コードブルーは・・・挿管の手順は・・・ドキドキしてきませんか？ドキドキが消えないうちに救急カートを開けて器具を手にとってみましょう。次に何をすべきか、自身の課題がみえてきませんか？

(男子回復期病棟師長 和田 英樹)

行事報告

平成26年7月24日、女子回復期病棟の院外活動として、角島へ行かせて頂きました。前日の悪天候から一変して、当日は晴れ渡り、角島の素晴らしい景観を患者さんと楽しませて頂きました。

道の駅「北浦街道 豊北」では、美味しい食事を堪能し、満足そうに談笑する患者さんの姿を横目に一枚の衝撃写真を撮らせて頂きました。右の店頭での代物には到底手は出ませんが、写真としては納めることはできました。皆さんにお見せできる写真がこの1枚しかなく、写真を撮り忘れるぐらい、絶景角島の魅力を感じさせてもらいました。
(作業療法士 田名橋 佳伸)



平成26年7月17日、男子病棟の院外活動にて、長府扇町にある巖流本舗の工場見学に行かせて頂きました。

見学場所では甘い匂いが漂っており、患者さんからは自然と笑みもこぼれていました。職員さんの説明を受けながら、巖流焼きの生地を焼くところから包装までの工程見学および焼きたての生地の試食をさせて頂きました。出来立ての生地を初めて試食させてもらい、とても美味しかったとのことでした。県内でも有名な巖流焼きの工場見学は、患者さんにとって思い出深い日となったのではないのでしょうか。巖流本舗の職員の皆様、ありがとうございました。



(作業療法士 土谷 亜維)

スタッフでつなげる、趣味のはなし。

連載 第15回 つなげよう! スタッフのわ

竹内 綾 臨床心理士

私の趣味は茶道です。最近あまりお稽古の機会がありませんが、高校生の頃から続けていて、10年になります。

茶道という堅苦しい印象を持たれがちですが、家にある身近なものを代用して、お点前をすることも出来るんです。また、お道具やお花、掛物を変えることで、季節の変化を感じ、毎日確実に、時が流れている事実を確認します。“一期一会”という言葉があるように、今は、今にしかありません。慌ただしく過ごす毎日の中でも、茶道の時間は私に、取り戻すことは出来ない、貴重で大切な時間を過ごしていることを思い出させてくれます。



次回は 鍛冶管理栄養士です。
おたのしみに!

編集後記

長く続いた雨も治まり、再び残暑と一日の寒暖の差の激しい日々が戻ってきました。食べ物も美味しく、様々な分野で魅力の多い季節になりましたが、特に体調を崩しやすい時期でもありますので、皆さんもしっかり体調管理を心掛けていきましょう。

(広報委員 小川 高宏)

